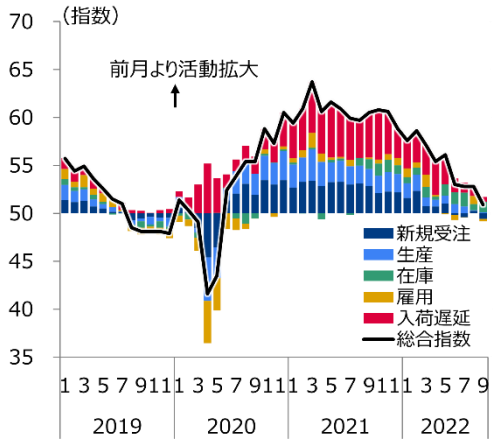
米国

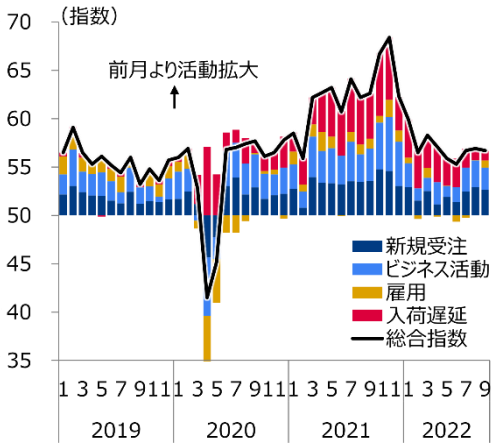
ISM景況指数（2022年9月）

大幅利上げの継続が重しとなり、企業活動に減速感

政策・経済センター
淺井優汰
03-6858-2717

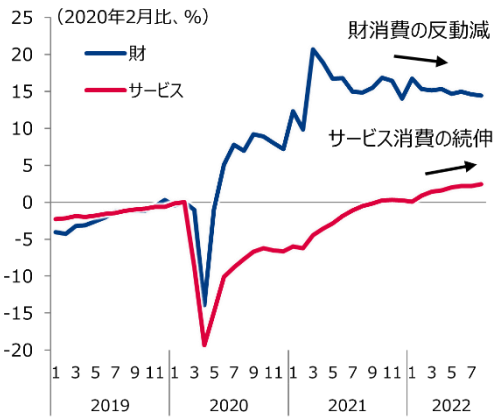
1 ISM景況指数（左：製造業、右：非製造業）





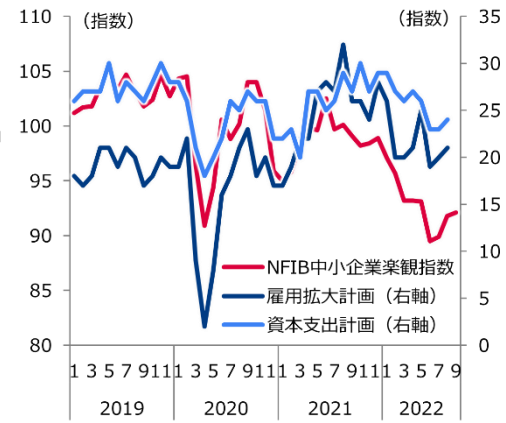
注:調査項目について、前月と比べ「改善・変化なし・悪化」の3択で行った企業アンケート結果を加重平均して算出。
出所：Institute for Supply Management®より三菱総合研究所作成

2 実質消費支出



注：2020年2月＝100とする。数値は22年8月までの値。
出所：米国商務省より三菱総合研究所作成

3 NFIB中小企業楽観指数



注：楽観指数は22年9月までの値。雇用拡大計画＝「3か月先の採用を増加予定の企業の割合」―「減少予定の割合」。資本支出計画は、3-6カ月先に設備投資を計画している企業の割合。
出所：NFIBより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 22年9月のISM製造業景況指数は50.9と前月から2pt弱低下した（図表1）。経済活動の拡大・縮小の境目である50は上回ったものの、20年5月以来の低水準となった。非製造業は56.7と2カ月ぶりに低下したが、高水準を維持した。
- 製造業の項目別では、新規受注が47.1と先月から4pt弱、雇用は48.7と5pt強の大幅低下し、悪化超に転じた。大幅利上げによるドル高が輸出収益を悪化させたことに加え、コロナ後に急騰した財消費の反動減が響いた（図表2）。
- 非製造業の項目別では、需要の強さを示す新規受注が60.6、ビジネス活動が59.1と高水準で推移し、非製造業の底堅さが示された。実際、サービス消費は財に約15カ月遅れでピーク前の水準へ戻り、続伸している（図表2）。
- 入荷遅延は、製造業が52.4、非製造業が53.9と低下が続いており、全体的に供給網混乱の緩和傾向が鮮明となっている。

基調判断と今後の流れ

- 製造業では大幅利上げの継続が重しとなり、50割れ目前と減速感が強まっている。一方、非製造業はサービス消費の続伸を背景に、堅調に推移した。
- 先行きは、FRBの大幅利上げによる借入コストの上昇や需要の減少が押し下げ要因となり、製造業を中心に企業活動の増勢は鈍化を続けると見通す。
- 既に、製造業の新規受注・雇用は、先月から大幅に低下し悪化超に転じた。雇用に関するISMのコメントでは、18業種のうち機械などは依然人手不足感が強いが、印刷業など10業種では新規採用の停止を通じた人員削減の動きが増加していると指摘されており、活動軟化の兆しがみられる。
- また、中小企業のマインドも悪化している。22年9月のNFIB中小企業楽観指数は92.1と19年平均（103.0）を下回る水準で推移している（図表3）。サブ項目の雇用拡大計画、資本支出計画は高水準ではあるものの、21年後半をピークに低下基調を示しており、企業活動の増勢鈍化は続くだろう。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.